

< H16 部会報告 >

N委員 製造ノウハウが公開できないために評価が低くなっているテーマがある。

所長 共同研究企業が困ることまで公開はできないので、それらの課題は外部評価のテーブルに挙げることで自体が間違っていた。今後、外部評価への提案方法を検討したい。

P委員 受託研究は評価が低い。受託研究を受ける場合は岩手県と関連した要素を付け加えた方がよい。

所長 来年度に向けてセンター内で（受託研究は評価対象外として）意思統一したい。

J委員 県産食品の安全制度の導入は北海道で既に実施している。岩手県でも導入してはどうか？

企画情報部長 県環境生活部が中心となって取り組みを始めている。

M委員 研究を開始する際にマーケティング調査やビジネスプラン検討は重要だが難しい。他機関との連携など、何か具体的な計画はあるか？

所長 まず、職員自らマーケティングの勉強が必要だと思う。商工労働観光部主催でマーケティング研修会を実施した際に当センター職員も参加させた。さらに発展させたい。

M委員 自動車産業に関連して何か計画があるか？

産業振興課担当課長 関東自動車工業では高級車 25 万台の生産で、地場調達率を上げていく方針。具体的には工程改善など地場企業とのマッチングを図る。工業技術センターでも鋳物技術を活かす方向である。

< H17 事業計画 >

C委員 知財の活用方法が一般企業とは違うのではないか？

所長 殆どが企業との共同出願である。

連携研究主幹 共同出願企業が実施した場合は持ち分に対しての実施料をいただく。

I委員 岩手ではINS等の産学官交流会は頻繁に実施しているので、重複するのではないか？

連携研究主幹 個々の企業との連携だけではなく、地域との連携を進めたいと考えている。そこで、地方振興局やINS等との共催で実施していきたい。

Q委員 環境技術部は企業の環境問題に取り組むのか？ 県のお他機関と重複しないか？

所長 環境保健研究センターは企業支援を担当していない。もしダブリがあれば調整する。

Q委員 食品系への力の入れ方が少ないようなのでもう少し強化してほしい。

所長 独法化で弱者切り捨てにならないように取り組む。

J 委員 環境に関して京都議定書の問題としてリサイクル等をアピールしてはどうか？

所長 ZnO が LED に応用され、全世界の信号機にそれが使われれば京都議定書もクリアできる。

E 委員 ZnO の共同研究でパートナー以外の競争企業の状況は？

所長 県外も参加してもらって県内企業を伸ばす。高知工科大や山梨大と情報交換を通じて仲間づくりを行っている。

連携研究主幹 公設試の役割は県内企業を伸ばすこと。一方、大学は県に拘らない取り組みができる。ヨーロッパやアメリカでも研究を始めているので、国内で争っている時代ではない。連携と競争の下で大学の指導もいただきながら国内で連携し、世界で勝ち抜いていきたい。

E 委員 世界的競争が始まって、アイデアがあれば特許戦略が重要となる。

E 委員 現所長になって職員意識の改革はあったか？

所長 当初は職員に対して辛口だったが、最近は誉めることが多くなった。

副所長 効率は上がっているが非常に苦しい。しかし、企業のために頑張っている。

Coffee Break

I 委員 地域連携として、都市エリア事業の生体材料を岩手発にする試みで、溶解炉を釜石と県の補助で整備している。県内企業にも広く P R し、釜石を応援してほしい。

所長 了解した。

D 委員 事業方針の自動車産業振興では具体的に何をやるのか？ 岩手県としての経済効果だけでなく地元企業のメリットは何か？

所長 自動車プロジェクトの 4 テーマを実施中である。

産業振興課総括課長 H17 年度に関東自動車工業 OB のコーディネータに工程改善研修を実施する。アドバイザーも新設し、単独で受注が難しい場合はグループ化してサプライヤのニーズに応える。技術習得のため愛知県のサプライヤに従業員を派遣する研修に人件費等を補助する制度や、センターの役割として県内企業訪問による技術のレベルアップ貢献を考えている。

C 委員 この 3 年間で工業技術センターは随分変わった。更によくするために、経営品質を測定してスパイラルアップしてはどうか？

所長 顧客の視点で考えるようになった。更に努力する。

F 委員 デザインが企画に入ったが、他部に対してどのような関わりをもつのか？

所長 共通に全研究部門に関わり、付加価値をつける。特に、市場化支援に力を入れる。

G 委員 企画デザイン部は英断だと思うが、それで支援 6 割・研究 4 割が本当にうまくい

くのか？ うまくいかない場合は組織の見直しも含めて対応してほしい。

所長 やってみて段階的に修正する。

G委員 知財出願は当初から念頭に入れるべきで、研究報告評価時では遅い。第三者だけでなく自らも積極的に出願すべきである。

所長 当初の洗い出しは行い、出しそびれがないか違う視点で実施するものである。

K委員 知財戦略として、基本特許だけで応用特許は出さないことは往々にしてあること。ノウハウとして押さえておくのも一つの手。財産が外に出ないように注意が必要。また、依頼分析自体を他企業に漏らさないよう秘密保持を重要視してほしい。

材料技術部長 工業技術センターの知財戦略は企業と相談すべきものとする。技術相談も含めて公務員の守秘義務がある。

所長 特許審査会では秘密保持のため、配付資料を回収している。

P委員 食品系は小さい企業が多いので成果が出にくい。道の駅などとの連携が重要であり、県としてカバーしてほしい。所員の力は高いが、学会等でアピールすることも大切。

食品技術部長 かなりの部分を技術相談で対応している。道の駅や授産施設も支援している。学会は岩手の特徴的な雑穀などの農産物をテーマとして取り上げてやっていきたい。

R委員 食品加工で危惧を抱いている。地産地消や機能性食品開発があっても残留農薬が検出されたらお終いなので、検査技術が重要である。県として品質を保証する仕組みがほしい。個人では負担が大きいため、県や工業技術センターで取り組んでほしい。

産業振興課総括課長 安全安心は付加価値を上げるので、そのために、H17年度に「食品産業振興プロジェクト」をスタートする。一気にはできないが、その中で検討する。

所長 安全安心は北東北3県の共通課題なので、共に検討していきたい。

O委員 外麦との比較だけでなく内麦どうしの比較はよい。ゆきちからの中華麺も評価が高かった。収穫量が少ないし、地域間の品質バラツキが大きいため、収穫量確保と品質安定のために農業研究センターとの連携を望む。次は、ゆきちからを使った「南部カッケ」の開発はどうか？

食品技術部長 農業研究センターや農林水産部とも連携して、来年度「南部カッケ」も検討したい。

所長 ビーアシュタンゲンも検討したい。

L委員 支援業務が強調されてよかった。企業訪問が共同研究に繋がっている。環境技術部は環境保健研究センターとの棲み分けや共同に期待する。廃棄物は技術以外のマネジメントで苦労している。基盤先導研究をもっと増やしたほうがよい。

B委員 現在実施中の連携大学院の評判が良くない。ものづくり大学院では工業技術センターの人と力を借りたい。

連携研究主幹 ドクターコースの学生が来なかったので、H17年度は休講とすることとした。しかし、ものづくり大学院には期待している。

N委員 従来技術はコスト競争になるので文化(付加価値)を付加する。失敗談として、ノウハウだけでなく、できるだけ基本特許 + 秘密保持契約の取得をお勧めする。

M委員 全国初の独法化に期待する。他県との人事交流を先駆け、秘密の流出は大丈夫か？ また、貢献度評価では挑戦的課題の取り組みは成果主義に陥らないか？ 難易度はどう評価しているのか？

連携研究主幹 北東北連携は過渡的な段階なので、ある程度は仕方がないが、派遣職員には秘密を守るよう指示する。

副所長 貢献度評価は支援や所内活動も含めて、全ての業務で加点評価し、成果主義にならないよう配慮している。

所長 難易度は Talk to talk で評価するが、完全ではない。妙案があればご指導願いたい。

S委員 食品は義務的な受託事業が多いが、夢のある基盤先導研究等に期待する。

E委員 木質バイオマスストーブ導入アンケートを東北の市町村に実施したが、県内でも導入数が少ないし、宮城県でも実績がない。既存の流通ルートに乗せた燃料の安定供給など周囲の環境整備が不可欠である。ハウスメーカーとの連携を支援してはどうか？

産業振興課総括課長 市町村の認識が低いので、17年度も引き続き努力したい。

H委員 多様化する中で仕事の整理が必要。デザイナーが商品開発するのは良いが、デザインは時間がかかるので、全部ではなく絞ってやらないと難しい。外部デザイナーの活用や新規採用が必要である。

所長 検討する。

J委員 東北大とセンターが共同提案して採択された NEDO 事業の評価が高かった。一見古いテーマでも研究体制や軽量化等の狙い所が良く、京都議定書の時宜にかなっている。

A委員 現所長になって、工業技術センターは随分変わったが、世の中の変化はもっと激しいので、それに対応するのは大変である。お客様本意とはいっても、工業系と食品系では随分違う。お客様の要望だけでなく、食品は地域性に重点を置き、ZnO 等の工業は全国レベルを狙って将来の飯のタネにする。産業といえるものをつくりたいなら、新しい要素を取り入れるべきで、失敗してもいい。リスクの高い研究に取り組むなら、研究評価は点数化しないほうがいい。

所長 ご意見ご指摘を咀嚼して事業計画に盛り込みたい。

産業振興課総括課長 工業技術センターへの期待の大きさを感じた。産業振興に繋がる独法化にしたいので、今後ともご助言をいただきたい。